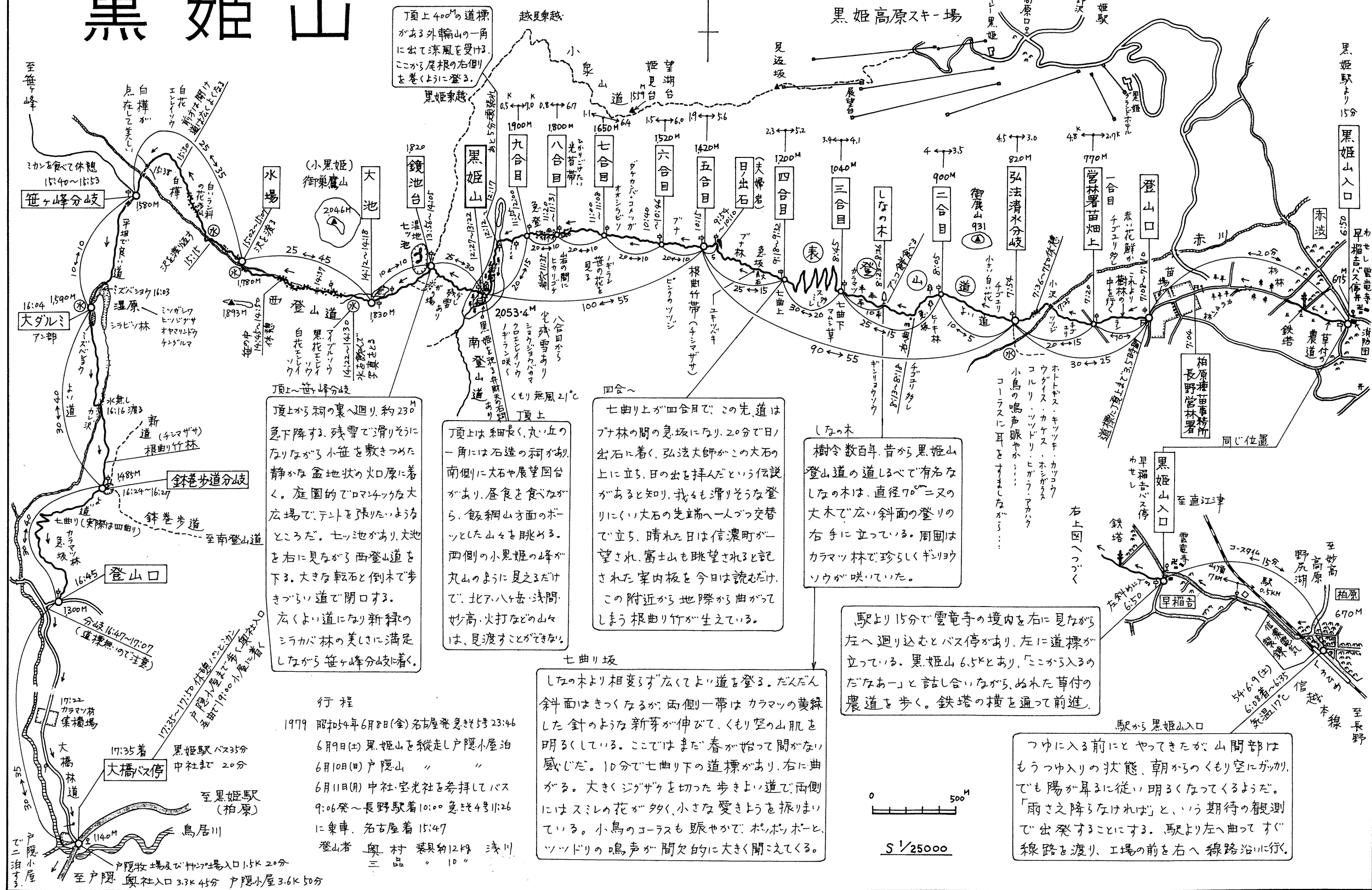


黒姫山

(上信越高原国立公園)



頂上400mの道標がある外輪山の一角に出て涼風を受け、ここから尾根の右側を巻くように登る。

頂上から祠の裏へ回り、約230m急下降す。残雪で滑りそうになりながら小笹を敷きつめた静かな盆地状の火口原に着く。庭園的でロマンチックな大広場で、テントを張りたいようなところだ。七ツ池があり、大池を右に見ながら西登山道を下る。大きな転石と倒木で歩きづらい道で閉口する。広くよい道になり新緑のミラバ林の美しさに満足しながら笹ヶ峰分岐に着く。

頂上は細長く、丸い丘の一角には石造の祠があり、南側に大石や展望台があり、昼食を食べながら、飯綱山方面のポイントした山々を眺める。西側の小黒姫の峰が丸山のように見えただけで、北アハ岳・浅間・妙高・火打などの山々は、見渡すことができない。

七曲り上り「四合目」で、この先道はブナ林の間の急坂になり、20分で日ノ出石に着く。弘法大師がこの大石の上に立ち、日を出る拝んだという伝説がある。我々も滑りそうな登りにくい大石の先端へ一人ずつ交替で立ち、晴れた日は信濃町が望まれ、富士山も眺望されたと記された案内板を今日は読むだけ。この附近から地際から曲がってしる根曲り竹が生えている。

樹齢数百年。昔から黒姫山登山道の道しるべで有名なしなの木は、直径70cmの太木で、広い斜面の登りの右手に立っている。周囲はカラマツ林で珍しくザリガシロウが咲いていた。

駅より15分で雲竜寺の境内を右に見ながら左へ回り込むとバス停があり、左に道標が立っている。黒姫山6.5kmあり、「ここから入るのだから」と話し合いながら、ぬれた草付の農道を歩く。鉄塔の横を通って前進。

つゆに入る前にとやってきたが、山間部はもうつゆ入りの状態。朝からのくもり空にガッカリ、でも陽が昇るに従い明るくなっていくようだ。「雨さえ降らなければ」という期待の観測で出発することにする。駅より左へ曲ってすぐ線路を渡り、工場の前を右へ線路沿いに行く。

行程

1979 昭和54年6月8日(金) 名古屋発急行5時23分
6月9日(土) 黒姫山を縦走し戸隠小屋泊
6月10日(日) 戸隠山 " "
6月11日(月) 中社・宝光社を参拝してバス
9:06発→長野駅着10:00 急行4号11:26
に乗車、名古屋着15:47
登山者 奥村 菜保子12歳 浅川 三品 " 10 "